

2023年度 町田市立町田第六小学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和5年3月31日

学校教育目標	心豊かにたくましく、伝え合い、認め合い、学び合う子供の育成	学校経営の重点	児童の学ぶ意欲を高め、児童が共に伝え合い、高め合い、共に学ぶことにより、他者と学ぶ価値や楽しさを実感できる授業をつくる。国語科を中心とした基礎的な学力の向上を目指す。
○目指す学校像	①どの子供も明るく、楽しく、支え合い、学び合い、明日の登校を待ち望む学校 ②保護者・地域から信頼され、安心して子供を通わせたい学校 ③教職員が教育に対する夢と使命感をもち、子供一人一人の成長を喜び合えるチームの学校	重点目標の成果と課題	成果 指導事項に沿ったねらいと、児童への即時評価、学びに向かう意欲や思考力を高めるための価値ある対話に向けた研究協議を継続することで教員の授業改善への意識が高まっている。他者と学ぶ合うことで児童がより考え、学ぶ価値や楽しさを実感できる授業を全教職員が目指している。国語科だけでなく、他教科の授業にも波及している。また、児童や保護者の回答も概ね良好。課題 確かな学力に関わる保護者自由意見回答の2割が否定的意見(ナビマでの宿題や指導の一貫性等)。学校運営協議会でも町田市教育委員会の支援を受け、学習環境改善に取り組んでほしいとの要望あり。自分の考えを伝えられない児童が20%。児童が互いの考えを伝え合えるよう、学習の手だてを考え、実践していく。
○目指す児童・生徒像	①深く学ぶ子 みんなと協力し、自ら学び、伝える力を高め、活用力のある学力を確実に身に付けた子 ②一人一人の違い、人間の多様性を認め、思いやりの心と行動力をもち合わせた心豊かな子 ③命を大切に、健康で安全な生活を心掛け、体力の向上に努める心身ともに健康でたくましい子		
○目指す教師像	①子供の成長を期待し、自らの資質向上に努める教師 ②学校教育目標達成のために組織的に尽力する教師 ③家庭・地域との		

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価 記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	学校からの迅速で効果的な情報発信と受信・共有を行い、教育活動への理解を求める。	学校だより等の掲載、学校公開や保護者会等の予定や方法の発信などホームページの更新をする。緊急メールの活用と問い合わせへの即時対応に努める。	4 各学年月3回以上の更新、電話等への即時対応 3 各学年月2回以上の更新、電話等への即時対応 2 各学年月1回以上の更新、電話等への即時対応 1 更新なし、電話等への即時対応	3	B	4 保護者アンケート肯定的回答90%以上 3 保護者アンケート肯定的回答80%以上 2 保護者アンケート肯定的回答70%以上 1 保護者アンケート肯定的回答70%未満	92.8	A	町田市で取り入れた学校保護者通信アプリを市内では最速で取り入れ、定着を図った。登録できない家庭には担任が粘り強く連絡し、12月には登録率が100%となった。これまでPTAは利便性から学校とは別のメール配信をしていたが、今後同じシステムで行いたいという申し出が複数届く。VCの尽力と昨年度までの繋がりから外部指導者との繋った学習が継続的に進んでいる。	学校ホームページ及び連絡用アプリの活用を継続する。 PTAの聯絡をアプリで行う 外部指導者とながった学習活動計画的に行う。 アンケートは任意であること、及び年度末評価の保護者アンケートは次年度の計画に必要であることをその都度丁寧に説明する。	TEFORUの導入により、学校と保護者の連絡がスムーズになり、地域との情報共有も促進された。地域協働活動においても保護者の参加人数が増えた。また、テトルの導入によりバーレス化が進み、情報の配信もスムーズになった。アンケート結果からは、保護者の思いや感謝の気持ちが増えつつありました。体験活動の企画・実践も活発になり、反省点もあつたが、先生方との情報交換は有意義な時間だった。学校からの情報発信の努力は高く評価できる。アプリの導入により、学校と地域社会の連絡・情報収集が早くなり、地域の協力を得て子供たちの教育活動も充実している。年4回以上の活用を希望する。	A
			地域の環境及び人材を生かした体験的活動を企画し、実施する。	コミュニティ・スクールを活用し、地域の教材や外部人材の活用を積極的に推進し、地域との交流や地域を生かした教育活動を充実させる。 学校運営協議会において、資料を示して児童の活動や変容等を具体的に説明して、共通理解を図る。	4 各学年 年4回以上実施 3 各学年平均 年3回実施 2 各学年平均 年2回実施 1 各学年平均 年2回未満実施	4	A	4 「おおむねできた」と教員が回答した。 3 80%以上が回答した。 2 60%以上が回答した。 1 60%未満であった。	100	A	保護者アンケートの自由記述では、ゲストティーチャーを招いての体験型学習について肯定的意見が寄せられている。 GoogleFormを利用したアンケートが定着している。配信が簡易であり便利だが毎回のアンケートが負担であるという意見もあつた。		
確かな学力の育成	授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	国語指導力の向上のため、校内研究を基盤として、言語能力を高める指導を推進し、基礎的・基本的知識及び技能の確実な習得・徹底を図る。	学習規律を確立し、ノートの作り方、発言のさせ方や板書等を共通理解し、授業実践に努める。	4 「おおむねできた」と教員100%回答 3 教員80%以上回答 2 教員60%以上回答 1 教員60%未満	88.9	B	4 児童の80%以上が課題に対する振り返りを実施 3 児童の70%以上が課題に対する振り返りを実施 2 児童の60%以上が課題に対する振り返りを実施 1 児童の60%未満が課題に対する振り返りを実施	83	A	町田市研究指定校1年目 学校行事の精選を行い、授業研修に重点をおいた年間計画を遂行した。指導事項に沿ったねらいと、児童への即時評価、学びに向かう意欲や思考力を高めるための価値ある対話に向けた研究協議を継続することで教員の意識が高まっている。児童や保護者の回答も概ね良好であった。 研究のテーマである価値ある対話の定義を明らかにし、それにそった実践検証は次年度に継続する。	行事や時数を見直し、研究授業の回数を今年度同様確保する。 7月までに、本校にとつての「価値ある対話」を定義し夏季休業中に指導方法を検討し、12月までに実践・評価を行う。 研究発表を通して教員の指導力向上と、授業を中心とした教育活動の充実・それを通じた学力向上を目指す。	昨年は漢字の書写がナビマで出されていたが、今年は紙に戻ったことで定着感が増した。学校公開日では、自分の意見を認められていると感じる子どもたちが積極的に手を挙げている。6年生の家庭科調理実習では、自分で考え行動し、仲間と対話しながら学ぶ姿勢をみんなが身に付けていることに感銘を受けた。ICTの活用については、保護者から疑問の声があり、電車を使って計算する子どもたちもいる。デジタルネイティブな子どもたちにはICTを積極的に活用させず、アナログ的な学びを経験させる、情報のしさを判断する力を身に付けたいと思う。授業で自分の考えを伝えられない児童が約20%いる。書写や家庭学習、読書に関して約20%ができていない評価だった。校内授業研究会では、細川先生の洞察力や先生同士の意見交換が活発であった。学習の基礎となる読書の育成に取り組んでいる校内努力を評価する。保護者の意見からは、児童の学習環境への対応が課題であることが始まる。学校内での課題には全校体制で取り組んでいることを評価し、学習環境改善に取り組んでほしい。今年度の学習面では、先生方の授業が工夫されており、取組や成果が進んでいると思われる。低学年の保護者が読み聞かせをしていることも良いことであり、続けてほしい。	A
			読むことの学習を中心に、自分の思いや考えを他者に伝える学習活動を取り入れた授業を設定する。	読書の中で、教育活動のねらいや指導事項に沿った児童の発言等の認め合いや振り返りを意識的に行う授業づくりをする。	4 児童の発言等を意識的に認めたと回答する教員80%以上 3 70%以上 2 60%以上 1 意識しなかった	88.9	A	4 保護者アンケート「各教科の基礎的・基本的なことが身に付いてきている。」との肯定的回答で80%以上 3 保護者アンケート肯定的回答70%以上 2 保護者アンケート肯定的回答60%以上 1 保護者アンケート肯定的回答60%未満	89.9	A	図書指導員と連携した学習を教員が意識して行った。また、研究主任を中心に読書についての意識を高めるための研修を行っている。低学年では指導員による読み聞かせが継続されており、今年度からは保護者による読み聞かせの活動も復活している。取組組みが年度当初計画通りすすんでるが、保護者のアンケートでは肯定的評価が60%以下になっている。全回答数のうち30名が「わからない」と答えていることも特徴的である。(児童の肯定的評価は75.8%で保護者評価との乖離がある)		
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にすること意識・意欲・態度を育てる。	小中一貫の教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校の決まりを守るとする意識を高める。	町六スタンダードの定着のため、全学級、全校体制での指導に全教員で取り組み、指導の徹底を図る。	4 「おおむねできた」と教員100%回答 3 教員80%以上回答 2 教員60%以上回答 1 教員60%未満	85.7	B	4 児童の80%以上が課題に対する振り返りを実施 3 児童の70%以上が課題に対する振り返りを実施 2 児童の60%以上が課題に対する振り返りを実施 1 児童の60%未満が課題に対する振り返りを実施	85.7	A	「学校はいじめ防止や体罰防止に取り組む子供の人権を大切にしている」設問に対して「わからない」という回答が47名に達している。これを除いて集計すると肯定的評価は90%を超える。道徳地区公開講座や保護者会を通していじめ防止や人権に関する取り組みを引き続き進めていく必要がある。	いじめ防止・体罰防止の取り組みを年度当初の保護者会や学校だよりで広報する。 学年で取り組んだ人権学習について学年だよりで保護者に知らせる。 「こころのアンケートでの訴え、職員への気づき、保護者からの情報があった時点で即座に職員間で共有・対応することを徹底。保護者からの情報は知らされた時点で直接電話をして即時対応する。	いじめに関する授業の増加により、子どもたちの意識が変わってきたと感じる。保護者としても、この対策に安心している。学年を問わず、大きな声で挨拶する子どもたちが多く、トラブルがあっても先生方が真摯に向き合っていると感じる。校庭遊びでは、学年を超えて交流し、高学年が低学年を気遣って声をかけられる様子が見受けられる。子どもたちのトラブルにも周りの子どもたちが仲間に入り、やさしい言葉でたどめる様子が見られた。学校では集団になじめない子や問題行動のある子にも、先生方が全員で連携して対応していることが、子どもたちの心の成長に良い影響を与えている。先学年よりいじめやいじめの被害に巻き込まれる児童が減少している。児童の申告や、挨拶やルールが守れない子は約7~8%だと答えている。先生方は道徳の授業などを進めていじめ問題に取り組む、子どもたちの変化に敏感に気づき、迅速に対応している。6月の児童会やまはらと学級との交流を通じて多様性を認め、偏見なく自然に生活しているため、中学生になってもいじめやいじめの被害に巻き込まれる児童が減少している。学校の取り組み、児童が家庭・地域・社会との触れ合いの機会を増やすことにより自立していること評価されている。また、コロナ感染対策下での学校行事の実施は、学校行事の在り方を見直すきっかけとなり、児童の心の涵養に役立つ教育活動となることを期待している。学校は児童の安全と安心な学校生活を保障する意識が高くなり評価されている。道徳教育を通じていじめに関する指導を上手に行っている先生方に加えて、保護者からも良い結果が得られている。学年関係なく話したり遊んだりすることで、豊かな心が育まれていると感じる。挨拶も以前より自然になってきた子どもたちが多くなったと思う。	A
			道徳教育や学級を中心とした様々な人との関わりを充実させる活動を通して、豊かな心を育む。	月1回「心のアンケート」実施や日常の観察・カウンセリングを通して、児童の悩みを捉え、いじめ対応チームなど、校内組織を活用し、迅速に対応して早期解決を図る。	4 「迅速に組織的に対応できた」と教員100%回答 3 教員80%以上回答 2 教員60%以上回答 1 教員60%未満	100	A	4 保護者アンケート「学校は、いじめ防止や体罰防止に取り組む、子供の人権を大切にしている。」との肯定的回答で80%以上 3 保護者アンケート肯定的回答70%以上 2 保護者アンケート肯定的回答60%以上 1 保護者アンケート肯定的回答60%未満	77.3	B	保護者アンケート「学校は、いじめ防止や体罰防止に取り組む、子供の人権を大切にしている。」との肯定的回答で80%以上 3 保護者アンケート肯定的回答70%以上 2 保護者アンケート肯定的回答60%以上 1 保護者アンケート肯定的回答60%未満		
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・互助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、基礎体力の向上を図る。	町六スタンダードの定着のため、全学級、全校体制での指導に全教員で取り組み、指導の徹底を図る。	4 「迅速に組織的に対応できた」と教員100%回答 3 教員80%以上回答 2 教員60%以上回答 1 教員60%未満	85.7	B	4 児童の80%以上が課題に対する振り返りを実施 3 児童の70%以上が課題に対する振り返りを実施 2 児童の60%以上が課題に対する振り返りを実施 1 児童の60%未満が課題に対する振り返りを実施	85.7	A	「学校はいじめ防止や体罰防止に取り組む子供の人権を大切にしている」設問に対して「わからない」という回答が47名に達している。これを除いて集計すると肯定的評価は90%を超える。道徳地区公開講座や保護者会を通していじめ防止や人権に関する取り組みを引き続き進めていく必要がある。	いじめ防止・体罰防止の取り組みを年度当初の保護者会や学校だよりで広報する。 学年で取り組んだ人権学習について学年だよりで保護者に知らせる。 「こころのアンケートでの訴え、職員への気づき、保護者からの情報があった時点で即座に職員間で共有・対応することを徹底。保護者からの情報は知らされた時点で直接電話をして即時対応する。	いじめに関する授業の増加により、子どもたちの意識が変わってきたと感じる。保護者としても、この対策に安心している。学年を問わず、大きな声で挨拶する子どもたちが多く、トラブルがあっても先生方が真摯に向き合っていると感じる。校庭遊びでは、学年を超えて交流し、高学年が低学年を気遣って声をかけられる様子が見受けられる。子どもたちのトラブルにも周りの子どもたちが仲間に入り、やさしい言葉でたどめる様子が見られた。学校では集団になじめない子や問題行動のある子にも、先生方が全員で連携して対応していることが、子どもたちの心の成長に良い影響を与えている。先学年よりいじめやいじめの被害に巻き込まれる児童が減少している。児童の申告や、挨拶やルールが守れない子は約7~8%だと答えている。先生方は道徳の授業などを進めていじめ問題に取り組む、子どもたちの変化に敏感に気づき、迅速に対応している。6月の児童会やまはらと学級との交流を通じて多様性を認め、偏見なく自然に生活しているため、中学生になってもいじめやいじめの被害に巻き込まれる児童が減少している。学校の取り組み、児童が家庭・地域・社会との触れ合いの機会を増やすことにより自立していること評価されている。また、コロナ感染対策下での学校行事の実施は、学校行事の在り方を見直すきっかけとなり、児童の心の涵養に役立つ教育活動となることを期待している。学校は児童の安全と安心な学校生活を保障する意識が高くなり評価されている。道徳教育を通じていじめに関する指導を上手に行っている先生方に加えて、保護者からも良い結果が得られている。学年関係なく話したり遊んだりすることで、豊かな心が育まれていると感じる。挨拶も以前より自然になってきた子どもたちが多くなったと思う。	A
			校内の安全な生活環境を整え、自分を守り、相手を守る安全教育の実施と危機管理体制を確立する。	児童の実態や体力テストの結果分析を生かした体育科の授業や体育的行事、休み時間などの機会を通して、運動の日常化を図る。	4 学年に2回以上実施 3 学期に1回実施 2 年間1回実施 1 実施していない	4	A	4 保護者アンケート「お子様の行動の様子や健康状態が、学校に伝わっている」肯定的回答90%以上 3 保護者アンケート肯定的回答80%以上 2 保護者アンケート肯定的回答70%以上 1 保護者アンケート肯定的回答70%未満	96.2	A	「昨年年度 体力テストの結果を踏まえた指導」という点で課題が残ったため、今年度は体育科を中心に、体育の授業に取り入れられるように学年発表をかね、保護者にも学年だよりを通して知らせた。マラソンやレジャや縄跳びチャレンジなど、感染症対策中にはできなかった活動も始まっている。しかし、休み時間以外で積極的に遊ぶと回答した児童は70%台にとどまっております。次年度も継続して取り組む必要があり。 給食は、食べる速さ、好き嫌いの指導の難しさを感じている。栄養と健康 という知識の習得と給食の時間の具体的な行動とを分け、保護者と連携して取り組む必要がある。 ・不審者情報、交通安全については迅速に対応した。児童の健康状態については保護者との連絡はほぼその日のうちにできている。より一層迅速に対応する。		
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・互助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、基礎体力の向上を図る。	児童の実態や体力テストの結果分析を生かした体育科の授業や体育的行事、休み時間などの機会を通して、運動の日常化を図る。	4 「おおむねできた」と教員100%回答 3 教員80%以上回答 2 教員60%以上回答 1 教員60%未満	82.4	B	4 児童の80%以上が課題に対する振り返りを実施 3 児童の70%以上が課題に対する振り返りを実施 2 児童の60%以上が課題に対する振り返りを実施 1 児童の60%未満が課題に対する振り返りを実施	74.7	B	「昨年年度 体力テストの結果を踏まえた指導」という点で課題が残ったため、今年度は体育科を中心に、体育の授業に取り入れられるように学年発表をかね、保護者にも学年だよりを通して知らせた。マラソンやレジャや縄跳びチャレンジなど、感染症対策中にはできなかった活動も始まっている。しかし、休み時間以外で積極的に遊ぶと回答した児童は70%台にとどまっております。次年度も継続して取り組む必要があり。 給食は、食べる速さ、好き嫌いの指導の難しさを感じている。栄養と健康 という知識の習得と給食の時間の具体的な行動とを分け、保護者と連携して取り組む必要がある。 ・不審者情報、交通安全については迅速に対応した。児童の健康状態については保護者との連絡はほぼその日のうちにできている。より一層迅速に対応する。	体力テストの結果を踏まえた体育の授業の取り組みを継続する。 縄跳びチャレンジ、マラソンチャレンジを継続する。 熱中症の心配のある季節に、休み時間室内で過ごすという習慣がとつたため、特に春や秋には積極的に外遊びをするよう担任からも声掛けをする。 食に関する個別の対応について保護者と連絡をとり、アレルギーだけでなく好き嫌いやそれに対する支援や指導について共有する。	マット運動の授業でクロムブックを使ってお互いに撮影してフォームを確認するのはとても良いと思った。休み時間も先生方が率先して外に出て全力で遊んでくれるので、外遊びに興味があった子どもも外に出るようになった。引き続きお願いしたい。温感化で夏場の熱中症リスクが高まりプール開放等、夏に外で体を動かす機会が制限されることが子どもたちの体力低下の要因のひとつになっている。「休み時間の外遊びが制限されることができない児童は、4~6年生に50~60%居ることが分かった。「早寝、早起き」「学校の様子を話さない」児童は、20%前後居りました。学校だけでなく家庭でも、改善の余地があるようだ。放課後まらちも学年の児童大勢で楽しそうにドッジボールをしている様子をよく見る。下校時通学路を守らずに歩いている児童を複数見かける。(注意します)(テレビ情報)不審者から身を守る方法として日頃から「こころがくれば」「だるまさんがころんだ」などで遊ぶことは理にかなっているそう。20分休みなどでそんな簡単に楽しく遊べるようになったらいい。コロナ下の生活による影響である児童の運動不足生活の改善への工夫・指導を期待したい。校内の安全・安心環境への配慮・指導は評価したい。用務主事の職務に当たる姿勢、特に、来客者への対応姿勢や児童と向き合う姿勢は高く評価したい。地域の協力を得られている児童の登下校時の安全・安心や用務さんによる校内の快適な環境確保に当たって、先生方にも評価されている。コロナ禍も落ちつき、少しでも休み時間を利用して外で遊ぶ子供たちが増えてきたように見受けられる。また、まらちまつりでも体育館で軽い運動ゲームなど楽しそうに行っている子供たちが多かったので、丈夫な身体作りになっているのではと思う。学校での給食は栄養バランスも良いので、なるべく残さないよう指導をし、子供たちの成長には外で遊ぶこととバランスの良い栄養をとることが成長に大事という認識を教えることがよい。	B
			給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	遊びのルール、校内の廊下・階段の歩行、通学路の歩行など、学校のきまりを守る姿勢を身に付けさせる。	4 90%以上の必要情報の理解と共通指導 3 80%以上の必要情報の理解と共通指導 2 70%以上の必要情報の理解と共通指導 1 70%以下の必要情報の理解と共通指導	95.2	A	4 保護者アンケート「お子様の行動の様子や健康状態が、学校に伝わっている」肯定的回答90%以上 3 保護者アンケート肯定的回答80%以上 2 保護者アンケート肯定的回答70%以上 1 保護者アンケート肯定的回答70%未満	83.2	B	「昨年年度 体力テストの結果を踏まえた指導」という点で課題が残ったため、今年度は体育科を中心に、体育の授業に取り入れられるように学年発表をかね、保護者にも学年だよりを通して知らせた。マラソンやレジャや縄跳びチャレンジなど、感染症対策にはできなかった活動も始まっている。しかし、休み時間以外で積極的に遊ぶと回答した児童は70%台にとどまっております。次年度も継続して取り組む必要があり。 給食は、食べる速さ、好き嫌いの指導の難しさを感じている。栄養と健康 という知識の習得と給食の時間の具体的な行動とを分け、保護者と連携して取り組む必要がある。 ・不審者情報、交通安全については迅速に対応した。児童の健康状態については保護者との連絡はほぼその日のうちにできている。より一層迅速に対応する。		

取組指標の評価基準(結果数値からABCD評価へ)	
取組指標平均 3.5以上	⇒ 評価A
取組指標平均 3以上3.5未満	⇒ 評価B
取組指標平均 2以上3未満	⇒ 評価C
取組指標平均 2未満	⇒ 評価D

成果指標評価基準	
成果指標平均 80%以上	⇒ 評価A
成果指標平均 70%以上	⇒ 評価B
成果指標平均 55%以上	⇒ 評価C
成果指標平均 55%未満	⇒ 評価D

学校関係者評価の評価基準について	
A⇒ 取組・成果ともに十分評価できる	
B⇒ 取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい	
C⇒ 目標達成には至らないため、次年度の改善が必要	
D⇒ 重要な課題であるため、次年度、重点的に改善	

※ 学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。